

---

# **国際超常対策機関『ダモクレス』日本支部行動記録**

佐鷺 遙氷

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

国際超常対策機関『ダモクレス』日本支部行動記録

### 【Zコード】

Z0332W

### 【作者名】

佐鷺 遙氷

### 【あらすじ】

この世は結構何でもアリだ。闇の請負人とかもいるし、裏業界には巨大な人材派遣の会社もある。

神はいるし、悪魔もいる。

国が秘密裏に運営している組織だって、存在する。

その中でも特に俺、蒼之宮<sup>あおのみやくわい</sup>紅葉が所属する組織はなかなかにテンプレートな設定だ。

国際超常対策機関『ダモクレス』。その日本第一支部の第13種。俺たちは今日も自分の中の何かを守るために戦っている。

## **報告?〇 プロローグ（前書き）**

一作目。  
ダモ録つて呼んでください。

## 報告?〇 プロローグ

ちょっと聞いてくれよ桜子。

5月3日、深夜、通りを家に帰るうと急いでいたら、なんか幼女が降つて来てさ……。

いや、ホント。ホントだつて！信じてくれよ桜子！

…え？ついに口リ趣味に走りましたか紅葉さん…だつて？いや、走つてねえよ！あんな電波幼女で口リ趣味に走る奴は頭がどうかしてるから！…あ？そんなに言つんだつたらその夜のことを話してみろつて？分かつた分かつた。

その、ヴィクトー・フランケンシュタインとか名乗つた幼女が降つて來たとき…………。

報告? 1 5月3日、AM3:00 (通書丸)

紅葉ちゃんは強いです。

5月3日、深夜3時。

「わつみー

あおのみや  
くれは

俺こと蒼之宮 紅葉はそんな事を呟きながら夜の道を歩いていた。本来なら3時間以上前に帰れるはずだったのだが、予想以上に面倒な仕事が入ってしまい、その後始末に時間がかかってしまい、今に至る。

「寒い寒い寒い寒いさむ寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い寒い」

寒いのは非常に苦手だ。ガキの頃からいろいろやらされたが寒さだけは克服できていない。

「寒くなけりや砂漠でも結構自身有るんだがな~」

そんな負け惜しみを言つたつて気温は10度。冬ならずつと寒いので耐えられるんだが、深夜に急に寒くなる様なのはお断りだ。得意な英文は「アイ、ドント、ライク、コールド」。寒なんて……消えちまえ!! 年中夏……とまではいかなくてもせめて一年中春になれ。なんて事を後輩に話してみたところ、

「ううん……わたしは1年が丸ごと好きなので同意しかねますね~」

と、言われたので我慢するしかないだろうな。ガンバ、俺。

…………… 11まではまだ、こんな事をぼやいている余裕があった。  
その次の瞬間にあいつが……落ちてくるまでは。

「ど、どいてくださいいいいいいいいいいいいいいいいい!!」

深夜だといつにでつかい声が上から聞こえてきた。まだ子供の

声だ。まつたぐ、こんな夜中に大声を上げさせたるなんて親はどんな教育してんだ?しかも、なんか上から声が聞こえてきたよつた気がする……あ?上?

上を見た。

なんか落ちてきた。  
真上から。

思わずキャッチ。

「…………」

「…………」

「…………」

「…………」

「…………」

「…………」

落ちてきて俺の腕の中にスッポリ納まつたのはおよそ12歳位であの少女だった。

「……何やつてんだ、こんな時間に?」

「突つ込むところはそこなんですかー?…とつあえず驚きまじゅう

「…」

「いや、わりいけど俺、職業上慣れてるからな。」この

「どんなジヨブしてんですか!?」

まあ、そんなことはどうでもいいとして。

「で、お前何なんだ、結局?」

「あ、はい。私の名前は

結論から言つと、その少女は名を名乗れなかつた。何故なら、

ヒューッ!  
ベチャッ、バタタタッ。

何かが飛来し、その少女の頭部を半壊させたからだ。支えを失つた頭の中身は当然零れ落ち、地面に半固体物の溜まる場所を作り出した。身体は脊髄反射でビクビクと痙攣を繰り返し、急速に体温が下がつてゆく。

その、無残な死体に對して俺は、

「……………ハア」

優しく地面に寝かし、眼を閉じさせた。

「やつたか？ん？」

「ノンだ。まだ確認できていない。一般人が邪魔だ。一時的に氣を失わせる」

「そいつが良いだろう。干渉されるのは鬱陶しいからな……あいつらか。

屋根に人が3人いた（正しくは1人浮かんでいたがそんな事はどうでもいい）。

男が2人、女が1人。

「おいおい、おいおいおいおいおい、おいおいおいおいおいおいおいおい。そここのテメエ！ とりあえず寝てろよオ！」

金髪を逆立てたガラの悪そうな男がなにかボウガンのような物を俺に向けた、が。

「……………『ウォーターブル』青の銃……………」

バシユツ ドンッ！…！…

「……………が、はあッ……………」

「お前が寝てろよ

撃たれる前に俺は青い銃を出現させて金髪を撃っていた。十字型の水の塊を高速でぶつけられた金髪は後ろに吹き飛び、電柱にぶつかり地面に落ちた。

「なつ！？」

「……」

俺の前で殺人行為をするつてのはなかなかの自殺志願だなこいつ  
ら。

「『ダモクレス』日本支部、第十三種序列参位の蒼之宮 紅葉だ  
解体するぞ……お前ら……！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0332w/>

---

国際超常対策機関『ダモクレス』日本支部行動記録

2011年10月16日12時58分発行